

新漁業管理制度推進情報提供事業

(予算区分 交付金 研究期間 平成9～18年度)
担当：水産試験場漁業開発部

【研究の背景とねらい】

TAC 制度に対応した計画的操業を進めるため、沿岸・沖合の漁海況について調査し、海況変動に応じた漁況予測手法について検討するなど情報の高度化を図り、的確な速報や漁況予測を漁業者に伝達します。

【研究成果】

- ・静岡県沿岸の定地水温は、年ごとの変動は大きいものの長期的に上昇傾向にあり(30年間で約0.5) 特に12月を中心に秋から冬にかけて大きな上昇がみられました。
- ・黒潮流型と沿岸水温の関係を長期的にみると、以前はA型>B型>N型>C型の順に高水温の傾向がみられ、平年に比べA型、B型は高め、N型、C型は低めでしたが、1995年以降の近年はA型>B型>C型>N型の順で、平年に比べて全般に高めとなっています。
- ・調査船による海洋観測により、黒潮流型による沿岸・沖合の水塊構造の違いを把握し、海洋環境の特性や長期予測の基礎資料を得ました。
- ・伊豆諸島北部海域が冷水域となるC型時にはサバ類の漁場形成が暖水の波及の状況と関連していることが確認されました。
- ・カタクチシラスの春漁について、水揚量と春漁の開始時期が、黒潮離岸距離、定地水温及び親イワシの水揚量を用いた重相関分析で予測できる可能性が示唆されました。
- ・観測結果や各種情報を迅速に処理解析し、漁況や海況の速報として、一都三県漁海況速報を毎日、漁海況月報を毎月、それぞれ発行し、またイワシ・サバの漁況と海況の予測を3, 7, 12月の年3回発表し、研修会やホームページ、ファクシミリ等を通じて関係漁業者に伝達しました。
- ・サバたもすくい漁業(1月)シラス船曳き網漁業(3月)サクラエビ船曳き網漁業(3, 10月)等の漁業者研修会では中長期予報をとりまとめ発表しました。



小川港防波堤の水温連続観測装置

伊東	B(+0.6)	A(+0.4)	C(+0.4)	N(+0.1)
稲取	A(+0.7)	B(+0.7)	C(+0.4)	N(+0.2)
下田	A(+0.8)	B(+0.8)	C(+0.4)	N(+0.2)
雲見	A(+0.8)	B(+0.6)	N(-0.2)	C(-0.1)
焼津	A(+1.4)	B(+1.0)	C(+0.5)	N(+0.4)
地頭方	B(+0.3)	A(+0.2)	C(-0.2)	N(-0.5)

近年の黒潮流型と沿岸水温の関係

図中の記号は黒潮流型を、()の数字は流型時の水温平年偏差を示す。

【研究成果の普及方法】

- ・漁海況速報や漁況予測は、引き続き、ホームページ、ファクシミリ及び各種研修会を通じて提供していきます。

(作成 平成19年3月)